



NPO法人
原発ゼロ市民共同 **かわさき発電所** ニュースレター

第54号

でん太通信
den ta tu ~ sin

●発行 2019.10.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■9/28「おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」を開催

～第5回 おひさまフェス×星空上映会をふり返って～

おひさまフェス×星空上映会事務局 木下 和枝（当NPO会員）



土手でくつろぎながら生演奏を聴くのは気持ちいい♪
焼き鳥・ケバブ・べっこう飴など美味しいもの沢山🍴

きれいに刈り込まれた土手に寝そべり、秋風に吹かれて
いる人々の足元には彼岸花。風に運ばれていく澄んだ歌声
と太鼓の音、そして癒しを誘うトランペット演奏。

やがて、夜の帳がおりた野外で楽しむ「かこさとしとエリ
ック・カール」の上映。会を締めくくるキャンドルナイトの
温かい灯の広がり！……今年のおひさまフェスは雨に邪
魔されず心ゆくまで楽しむことができました。

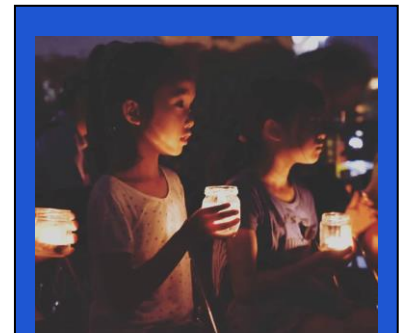
9月28日（土）、ニヶ領せせらぎ館前の多摩川河川敷で
おひさまフェス×星空上映会 in かわさき 2019 を15時
から19時まで開催し、おかげさまで 1000 人ほどの方
にご来場いただき無事に終了しました。



17時半には日も暮れ、闇夜になってからの上映会。
「はらぺこあおむし」「からすのパンやさん」ほか。

「市民が作った電気でお祭り、多摩川で地域がつながる
人がつながる」というメッセージは今年で5回目となった
おひさまフェス&星空上映会のチラシに毎年書かれてい
ます。この言葉は 2015 年の初回のチラシを作成するに
あたって、立ち上げメンバ
ーがホワイトボードを真ん中
にして口角泡を飛ばして生
み出したものでした。

5 年の日々を振り返っ
て、私自身しみじみ感じているのはこのイベントを通じ「人がつながる」が
現実のものになっていたということです。この取り組みがなかったら知り



締めくくりは「キャンドルナイト」



合えなかった人々がとても愛しいものとなっています。



共催してくださっている多摩エコミュージアムの方々の体制は今年から変わりましたが、これまで責任者として4回かかわってくださったTさんがご夫婦で来られ、会った人々と談笑されている姿はとても暖かく印象的でした。私は彼に言われた「若い人達に引き継げるまでもう少し頑張ってください！」の言葉をかみしめました。ここでかかわった多くの人々の間に素敵なつながりを生みだし枝葉を伸ばしているようです。



国連でスウェーデンの16歳の少女グレタさんが地球温暖化を止める行動に本気で取り組むことを求める演説を行い、世界に強いメッセージを発し大きな共感と衝撃をもたらしました。第5回おひさまフェス&星空上映会はその直後のイベントとなり、主催者の規模を小さくしようという思いに反して、集まった人々はひとまわりふたまわり広がっていました。



本部テントを訪れた若い二人連れが「この集まりはどういう主旨で行われていますか？」と話しかけてきてくれました。「原発に頼らず再生可能エネルギーでこのイベントの電気を賄っているという現実から何かを感じ考える機会となれば、という思いで取り組んでいる」といった話をうなずいて聞いてくれました。今回も、原発ゼロ市民共同かわさき発電所2

号機の電気を電気自動車(※横浜トヨタから無償提供)に充電して運びました。その電気で音楽を聴き映画を上映したのです。

災害時に役立つ再エネ体験コーナー『再エネ&防災ひろば』のクイズラリーでは、100人近い子供たちが「再生可能エネルギーにはどんなものがありますか？」などの質問に嬉々として答え、ソーラーや木質バイオマスなどに触れる機会を得て記念品をゲットしていきました。



毎年、音響と上映の電源は、市民がつくった電気で賄っています。(太陽光発電所の電気を横浜トヨタ提供の電気自動車に充電)



■発電所4号機「建設協力金」の募集スタート！

2017年11月に完成した3号機（※下記チラシの写真は3号機通電式のときのもので）は、神奈川県からの補助金と(株)日本政策金融公庫からの融資によって建設費を調達しましたので、「建設協力金」の募集は2015年8月に完成した2号機のと看以来4年ぶりとなります。

原発ゼロ市民共同かわさき発電所 4号機 ～原発ゼロを目指し、建設協力金募集中～



私たち「NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所」は、東京電力福島第一原発事故をきっかけに原発に頼らない社会を目指し、再生可能エネルギーの発電事業に取り組んでまいりました。「反対運動も大切だが、具体的に自分たちができることをしていきたい」という思いからです。その志に川崎市で活躍している市民活動の方を中心に地域の力を結集いただき、これまで太陽光の発電所を作ってきました。そして、ついに4号機を建設することができるようになりました。

今後、そこで得た利益は、脱原発と再生可能エネルギーの普及など地域のために活用してまいります。

この出資は無配当でおかつ元本保証をお約束できない「無配当出資」です。（休業補償保険などに加入します）。それでも地域に安心できるエネルギーを増やすことを応援したい皆さまのご協力をお願い申し上げます。

- 事業内容
- (1) 名称 原発ゼロ市民共同かわさき発電所 4号機
 - (2) 場所 川崎市中原区井田 3階建てアパート屋上
 - (3) 設備 61.84kW
①太陽光発電パネル 219枚
②パワーコンディショナー(オムロン製)
③架台(アルミフレーム・シルバーアルマイト表面処理)
 - (4) 建設費 約900万円(税込み、運搬費用含む)
 - (5) 事業者 特定非営利活動法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所
〒211-0013 川崎市中原区上平間 184-1-1002 (田中苑)
FAX:044-211-0121 問い合わせ 090-7948-6189(担当:川岸)
 - (6) 施工者 株式会社ディ・ディ・エス
〒252-1114 神奈川県綾瀬市上土棚南 5-2-37
TEL:0467-78-8825
 - (7) 発電量 年間 75,507kWh(初年度予想)年間売電収入 1,495,039円(kWhあたり18円)

悲願だった「4号機建設」の場所、施工事業者、工法がほぼ決定し、いよいよ建設の目途がたちました。残すは、建設費約800万円の調達です。

1号機・2号機は1口10万円でしたが、4号機は1口5万円です。2025年3月31日まで(約5年間)に返済する予定になっております。ぜひ温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

お申込み頂いた方に契約書をお送りします。

【4号機プロジェクト申込書】

私は、「NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所4号機プロジェクト」の趣旨に賛同し申し込みます。

申込年月日 20__年__月__日

| | | | | | |
|----------|--------------------------|-------|------------------|-------|--------|
| フリガナ | | | 生年月日 | | |
| お名前 | | | 年 | 月 | 日 |
| 現住所 | 〒 - - | | | | |
| | 電話番号 | - - - | FAX | - - - | |
| | E-mail | @ | | | |
| 出資金額 | ※1口5万円単位 | □ | 金額 | 円 | |
| メンバーリスト | □登録する | | □登録しない | | |
| 会員希望 | □入金済 | | □入金希望(申込書を送付します) | | □入金しない |
| | (年会費 正会員:5千円、サポート会員:1千円) | | | | |
| 職業・所属団体等 | | | | | |

【プロジェクト申込書 送付先】



▲建設予定のアパート屋上

OFAX: 044-211-0123
 OEmail: genpatuzero.hatuden@gmail.com
 ○郵送: 〒210-8544
 川崎市川崎区砂子1丁目10-2
 ソシオ砂子ビル7階
 川崎合同法律事務所 川岸卓哉 宛
 OHP: <https://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>
 【手続き】
 プロジェクト申込書を作成・送付いただいた方に
 契約書をお送りします。

【プロジェクト概要】

| | |
|-------|--|
| 名称 | 原発ゼロ市民共同かわさき発電所4号機プロジェクト |
| 形態 | 無分配型出資契約(分配金なし) |
| 対象事業 | 太陽光発電設備を活用した発電および売電事業 |
| 申込単位 | 1口以上1口単位 |
| 申込金額 | 1口あたり5万円 |
| 募集総額 | 800万円 |
| 契約期間 | 本契約締結日から2025年3月31日まで(中途解約できません) |
| 利益の使途 | ①再生可能エネルギーを普及するための事業 ②原発のない社会を創るための活動支援 |

- お名前
 - ご住所
 - 電話番号
 - E-MAIL
 - 口数と金額
- を、下記①～③いずれかの方法でお送りください。

①FAX: 044-211-0123

②E-MAIL: genpatuzero.hatuden@gmail.com

③郵送: 〒210-8544 川崎市川崎区砂子 1-10-2 ソシオ砂子ビル7階
川崎合同法律事務所 川岸卓哉 宛



■9/22『東海第二原発の危険性と再生可能エネルギーの可能性』報告

原発ゼロへのカウントダウン in かわさき事務局長 鴨下 元 (当NPO理事)

9月22日(日)、多摩市民館にて、原発ゼロへのカウントダウン in かわさきが主催する「東海第二原発の危険性と再生可能エネルギーの可能性」を開催し、120名が参加しました。冒頭に NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所の加藤伸子副理事長が発言、市民発電所4号機の建設にむけた協力を訴えました。

集会の前半では、30分のドキュメンタリー映画「恐怖のカウントダウン 東海第二原発をとめたい」を上映。運転開始から40年が経つ老朽化して危険な東海第二原発の怖さと、無責任な管理体制が描かれていました。

つづいて、映画「日本と原発」や「日本と再生」

の監督であり、日本各地の原発訴訟を弁護士として闘っている河合弘之さんが講演。河合さんは冒頭、東海村から150キロ圏内に、東京23区、川崎市、横浜市、千葉市、宇都宮市などが含まれている地図を示して、福島原発事故の時には「最悪のシナリオ」として250キロ圏内の避難が検討されていた事実を照らし、東海第二原発で事故が起これば東日本が壊滅し、個人の土地や建物等の財産は無価値になり、日本経済と国家が壊滅することを説明しました。また、150キロ圏内には3000万人以上が住んでおり、避難と言っても受け入れ先も移動手段も確保できないことを指摘しました。

そして、世界的には原発をやめて再生可能エネルギーへ転換する大きな流れが起きている、経済的にも再エネはコスト面で優れており、やがて日本も再エネが主流になることは間違いない、しかし、それまでの間に再び福島のような原発事故が起きてしまわないように、声をあげていくことが大切だと訴えていました。



講師の河合弘之弁護士から勇気とパワーをいただきました。「原発事故が起これば格差も介護もどんな問題も全部ぶっ飛ぶ。ぼくは最優先で原発を止める。必ず我々は勝つ！！」



当NPO法人の加藤副理事長からアピール

【編集後記】

台風15号にひきつづき、10/12台風19号は甚大な被害をもたらしました。被災された皆様、こころよりお見舞い申し上げます。

4号機「建設協力金」の進捗状況は中々きびしく、5年間出資してもいいよとってくださる方、お頼み申し上げます。(加藤伸子)

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

でん太通信は、ほぼ隔月15日に発行しています。

